

地方公共団体のスーパーシティ提案についての
国家戦略特区WG委員等によるヒアリング
(和歌山県・すさみ町合同)
(議事要旨)

(開催要領)

- 1 日時 令和3年5月17日(月) 17:10~17:42
- 2 場所 永田町合同庁舎703会議室等(オンライン会議)
- 3 出席者

<自治体等>

| | |
|--------|--|
| 岩田 勉 | すさみ町長 |
| 仲 哲生 | すさみ町地域未来課長 |
| 中露 竹祉 | すさみ町地域未来課副課長 |
| 水上 力仁 | すさみ町地域未来課副主査 |
| 鳥羽 真司 | 和歌山県企画部企画政策局長 |
| 城 雄人 | 和歌山県企画部企画政策局企画総務課主査 |
| 岡田 信一郎 | 和歌山県・すさみ町共同スーパーシティ構想アーキテクト 株式会社南紀白浜エアポート代表取締役社長 |
| 園田 崇史 | 株式会社ウフル代表取締役CEO |
| 古城 篤 | 株式会社ウフルChief Research Officer |
| 田中 正宏 | 株式会社ウフルBusiness Development部長 |
| 板東 一郎 | NEC株式会社和歌山支店長 |
| 佐藤 琢也 | NEC株式会社 クロスインダストリユニット・シニアマネージャ |
| 桑原 智宏 | NEC株式会社クロスインダストリユニット シニアエキスパート |
| 春山 昌司 | NEC株式会社クロスインダストリユニット シニアエキスパート |
| 河原 眞 | NEC株式会社社会公共ビジネスユニット シニアマネージャ |
| 増田 晋哉 | NEC株式会社クロスインダストリユニット・マネージャ |
| 山元 貴詞 | NEC株式会社クロスインダストリユニット・主任 |
| 岡元 昌哉 | NECソリューションイノベータ株式会社・マネージャ |
| 深谷 洋 | NECソリューションイノベータ株式会社・担当 |
| 中島 裕司 | ソフトバンク株式会社副本部長 |
| 山田 恵祐 | ソフトバンク株式会社部長 |

木村 篤 ソフトバンク株式会社課長
豊辺 将嘉 ソフトバンク株式会社課長
今井 啓太 ソフトバンク株式会社
梅澤 雄司 ソフトバンク株式会社
難波 脩人 ソフトバンク株式会社
又江原 恭彦 株式会社ラック新規事業開発部長

<国家戦略特区ワーキンググループ委員>

座長 八田 達夫 アジア成長研究所理事長
大阪大学名誉教授
座長代理 原 英史 株式会社政策工房代表取締役社長
委員 秋山 咲恵 株式会社サキコーポレーション ファウンダー
委員 阿曾沼 元博 医療法人社団滉志会社員・理事
委員 安念 潤司 中央大学大学院法務研究科教授
委員 菅原 晶子 公益社団法人経済同友会常務理事
委員 中川 雅之 日本大学経済学部教授
委員 八代 尚宏 昭和女子大学グローバルビジネス学部特命教授

<情報・デジタル、個人情報保護の専門家>

平本 健二 内閣官房政府CIO上席補佐官（スーパーシティ／スマートシティにおけるデータ連携等に関する検討会 委員）

<内閣府地方創生推進事務局>

眞鍋 純 内閣府地方創生推進事務局長
山西 雅一郎 内閣府地方創生推進事務局次長
佐藤 朋哉 内閣府地方創生推進事務局審議官
喜多 功彦 内閣府地方創生推進事務局参事官

（議事次第）

- 1 開会
- 2 議事
 - （1）提案内容の説明
 - （2）質疑応答
- 3 閉会

○喜多参事官 本日は、御多忙のところ、御出席いただき、誠にありがとうございます。
これより和歌山県・すさみ町からスーパーシティ提案についてのヒアリングを実施いたします。

まずは自治体より提案内容につきまして10分程度で御説明いただき、その後、質疑応答を全体で40分程度を予定しております。

質疑応答の際の司会は、八田先生によりしくお願いいたします

それでは、自治体より提案内容の御説明をよろしくお願いいたします。

○岩田町長 すさみ町長の岩田でございます。よろしく申し上げます。

すさみ町につきまして、ごく簡単に御紹介をさせていただきます。

人口は3,800人、高齢化率が47%という典型的な過疎の町であります。その上、人口減少が激しく、毎年100人近くが減少しているところでもあります。和歌山県では一番高いところでございます。多くの第一次産業があり、多くの課題を抱えた典型的な過疎地であります。しかし、明治時代から活路を海外に見いだして、北米、南米、豪州に移民、または出稼ぎ等で町の経済を支えてきたわけでもあります。

そういうことで、町内からお迎えする心、新しいことを想像する力があります。日本で一番最初にレタスを栽培したのがすさみ町であります。また、ケンケン漁を全国に普及させたのもすさみ町であります。イノブタというイノシシと豚を合わせた新しいブランドもつくっております。

いろいろ試行錯誤してきたわけではありますが、その中で今回のスーパーシティ構想が持ち上がったわけでもあります。このことにつきましては、小学生が大変興味を持っております。また、お年寄りの方もすさみ町がどう変わるかということに可能性を楽しみにしているところでもあります。

町長としてこの町を持続可能な町にするために、アーキテクトとともに町民一丸となって、この構想に取り組むことを誓いたいと思います。これからもいろいろ取り組んでまいりますので、御支援をいただきますようお願いを申し上げまして、町長としての決意表明にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

内容については、アーキテクトより御説明を申し上げます。

○岡田アーキテクト 内容については、アーキテクトの岡田より説明いたします。

私は、南紀白浜空港の社長であり、経営コンサルティング会社経営共創基盤の共同経営者であります。

すさみ町の概要については、3ページにあります。岩田町長が説明したとおりです。記載していませんが、すさみ町の最大の売りがリーダーシップのある町長、町民をまとめられます。

今回のスーパーシティ構想については、大人向けの住民説明会にとどまらず、町の未来を担う中学生全員に対しても説明会を実施したほどです。

さらにもう一つの売りが空港会社の存在です。準公共的な特徴を生かし、地域連携や事業者の呼び込みを積極的に行い、それが活性化の好循環をもたらしている地域であります。

4ページですが、南紀熊野スーパーシティ構想が目指すものは、町全体が最先端のテクノロジーのショーケースとして、すさみの自然や日常をハイテクで体験してもらう。コペ

ンハーゲンの生活観光資源という考えにも通じますけれども、ライフケーションという、「暮らすように過ごす」新たな旅の形、来訪者を観光客ではなく、一人の住民として歓迎、住民との交流やすさみの生活そのものを楽しんでもらうことで、交流人口から関係人口、定住人口へつなげていきます。

具体的には5ページですが、まず観光です。住民顎足枕マッチングでどこでもランチ、どこでも民泊、誰でもタクシーで訪れた人と住民との交流ができます。

既に白浜で導入済みの顔認証で顔パス決済、手ぶら観光もできる。

次世代型水耕栽培で農業体験もできます。

移動は自動運転、乗合いタクシー、マイクロモビリティ、休日の遊休公用車などです。

また、すさみはカツオが有名ですが、ドローンで鮮度が命のカツオを運ぶといった物流。

ワーケーションでは、一緒にいらっしゃるお子様の教育も課題ですが、オンラインICT教育やデュアルスクール等の区域外就学制度も取り入れます。

ほかにも防災、医療、低酸素分野でも各種取組を行います。

次は規制改革ですが、6ページが概要です。

どこでもランチ、どこでも民泊を実現するための調理場の施設基準緩和と、民泊可能日数の上限撤廃、ワーケーションや長期滞在を促進する「ワーケーション特区」のための労働法制関係、カツオや日用品、医薬品の物流を支えるドローン関係、移動分野では完全無人自動運転とキャッシュレスです。

具体的な提案は全部で17、7ページから御説明いたします。

1の食品衛生法上の施設基準緩和ですが、どこでもランチのためです。飲食店が少ないすさみ町において、地域住民との交流をすることで、住民の生きがいづくり、あるいはすさみのファンづくり、地元食材活用による経済活性化などを狙っています。食品衛生法で求められる調理場の区画を分けずに、住民も同じものを食べるのであれば、家庭用の台所で調理したものを提供してもよいのではないかと考えています。

2はどこでも民泊のため、180日の上限を撤廃するものです。宿泊施設も少ない地域であり、地域住民との交流によりすさみのファンづくり、関係人口の増加につなげる目的です。空き家の活用も考えています。

3～8は移動分野です。3ですが、すさみ町では都会と違い、特定少数の乗客の利用が想定されるため、オンデマンド交通は効率性・利便性において優れており、また、バス、タクシー、貨物など、様々な形態を1台で担うことで、車両の稼働向上を図ります。

加えて、4の変動運賃制により、ニーズに合わせた多様なサービスにより事業性を高め、二次交通を長期持続的に維持させます。

5、6は自動運転に伴うものですが、レベル4の自動運転により、まずは観光客向けの短路線からはじめ、将来的には住民の足になる町内路線バスを目指します。

6ですが、乗務員がいないため、顔認証での運賃収受をするものです。

7、8については、マイクロモビリティです。交通手段が少ないすさみ町において、

乗り捨て可能なワンウェイ型カーシェアサービスによって、観光客や住民の利便性を向上するために、公道の路肩や歩道に貸出し返却場所を設けるものです。

8ですが、電動ハイブリッドバイクについては、安全性が自転車とほぼ同じぐらいであると考えられますので、ヘルメット着用義務を緩和することで、観光客や住民の近距離移動の利便性を高めます。電動のため、CO₂削減にもつながります。

8ページに移動しますが、9のドローンです。鮮度が命のカツオや翌日以降の配送となっている新聞、あるいは日用品、医薬品を配送するための提案です。

関連して、17は災害時に蓄電池やガソリンなどの危険物を含む救援物資を運びたい、そういった狙いです。

10～14はワーケーション特区に関するものです。10ですが、和歌山県は全国一のワーケーション推進県です。昨今はワーケーションの際に副業を通じた貢献をしたいといったニーズも高まっています。ワーケーションは、ワークとバケーションを組み合わせたもので、休暇が前提としており、長時間労働に当たらないため、労働時間の通算の適用除外を求めるものです。

11ですが、現在の短期型のワーケーションから長期滞在型へと発展していくために、時間単位の年次有給休暇の累計5日までという制限を撤廃し、労働者の心身のリフレッシュと柔軟な休暇取得を目指します。

12はスーパーシティを支えるIT人材の確保にもつながることですが、優秀な人材を町内に集め、産業面、教育面での効果も得られるため、年収条件も和歌山の实情に合わせた750万円以上と緩和して間口を広げるといった考えです。

13、14はワーケーション型グリーンツーリズムを目的にしたもので、市町村長が認めた場合は、農地の転用許可を不要とするものです。レタス栽培の発祥の地であるすさみ町で、農業に関する体験交流施設を設け、関係人口の増大につなげます。農業振興に資することなので、固定資産課税上は農地として評価を求めるものです。

15、16は医療分野です。次世代型ウェルネスツーリズムで心身の変化をウェアラブル端末等で常時計測するわけですがけれども、不安や異常を検知した場合、地域の病院でのオンライン診療を行うものです。現在、時限的措置ですが、恒久化を提案します。服薬指導も同様です。

以上が新たな規制・制度改革の提案です。

加えて、既存の国家戦略特区の特例措置も2件の活用提案をしています。

提案書の83ページになりますけれども、一つは、農家、民宿等の宿泊事業者等の旅行商品の企画提供の解除、この地域での着地型旅行商品の企画提供の機会を増やします。

もう一つは、企業による農地取得の特例です。次世代型水耕栽培により観光客が農業体験を行うことや、発育状況をデータ分析するなど地元の小中学生向けのICT・AI教育を実施することを目指しています。

9ページのデータ連携基盤についてです。七つの先端的サービスを支える基盤として共

通インフラサービスとデータ連携基盤の二つが特徴です。

一つ目のサービスですけれども、顔認証をはじめ、支払い、ポイント管理など、複数の先端的サービスが共通で利用できるサービスです。個別の構築ではなく、シェアード的な利用を可能とすることで、コストの低減、あるいはイノベーションの創発につながります。

次のデータ連携基盤ですが、国内外で実績豊富なNECのFIWAREを採用予定です。FIWAREのデータ仲介機能により先端的サービスやデータ提供インフラで保持するデータを、データ連携基盤に蓄積することなく、データ分散方式でのアクセスが可能となります。オープンソースであるものを採用することで、汎用性を確保し、また、ほかの事業者が参加しやすいよう、国際標準のAPI、NGSIで各先端的サービスとデータ連携基盤を接続いたします。

なお、同意管理や個人認証の機能が重要だと認識しておりまして、過去2年以上、白浜で顔認証を展開しておりますが、これらに十分留意することで、今のところ大きな問題は起きていません。

以上がデータ連携基盤になります。

最後にまとめますと、南紀熊野スーパーシティ構想では、七つの先端的サービス、新規17件に加え既存国家戦略特区活用2件の全19件の規制改革、それらを支えるデータ連携基盤を提案しています。地域をまとめられる町長と事業者をまとめ、地域とつなぐアーキテクトの私がしっかりと構想を推進していきたいと思っております。

説明は以上です。ありがとうございました。

○八田座長 ありがとうございました。

それでは、質問をお受けしたいと思います。八代さん、お願いします。

○八代委員 ありがとうございました。

とても興味深い御提案なのですが、労働基準法関係でお伺いさせていただきたいと思えます。時間当たりの休暇取得を5日より増やすということなのですが、ここは長期の休暇、ワーケーションで来られる人を対象とするわけですから、時間当たりを取ることは、そんなに長い時間が必要なのがよく分からなかったもので、これは小刻みに都会で仕事と休暇の分割を容易にするための仕組みだと思うので、長期休暇との関係はよく分からなかったもので、教えていただきたい。

もう一つは、高度プロフェッショナル制度の適用のところに1000万円の上限を750万にさげる根拠をどう説明されたのか、言われたのですけれども、よく聞こえなかったもので、これは休暇が長いので、その分だけ無理に働く必要がないとか、そういううまい理屈があったほうが説得力はあると思えますので、その2点を補足していただければと思います。

○岡田アーキテクト 御質問ありがとうございます。

後で県庁からも補足いたしますけれども、1点目の5日の除外ですが、ワーケーションという形態自体は、ある意味、休暇とワーク、バケーションと仕事がミックスされたような形になるのです。和歌山県にいらっしゃる東京の方や都会の方が多いわけですが、比較的長い時間がこれから増えていくだろうということです。

長い期間は本当に多い人だと2週間とかいらっしやるわけですが、ワーケーションというのは完全なオフでもないわけです。ある週の月曜日の2時間を働こう、金曜日の3時間を働こうとか、そういった小刻みな働き方のニーズが出てきますので、5日の枠を使いすぎてしまうおそれがあります。5日を超えてしまうと、1日単位でしか休めなくなりますので、そうなると、柔軟性が損なわれてくるのではないかと考えた考えであります。

二つ目の高度プロフェッショナル人材については、全国水準で1075万円と決まっていますが、和歌山自体の年収レベルの実情からすると、もっと低いわけです。掛ける3というのは、全国と同じものにしていて、750万円のある意味和歌山基準という特例をつくることによって、より多くの方にお越しいただける。特にIT関係の人がワーケーションは多かったりするわけですが、そういった人を呼び込むことによって、スーパーシティを支える人材にもなり得るのではないかと考えた考えであります。

補足があれば、お願いします。

○鳥羽局長 県の企画部の鳥羽と申します。よろしく申し上げます。

5日の時間休につきましては、今、アーキテクトが御説明したように、実際にワーケーションで来ていただいている方も、午前中は働いて、午後は海に行って遊ぶということをしていまして、それが長期化していくと、時間休が足りなくなる場合が出てくると思っております。

高度プロフェッショナル制度につきましては、全国平均の3倍年収ということで大体決められているとお伺いしておりますが、本県の年収ベースというのは250万円程度です。その3倍辺りでももう少し緩和をいただけないかという理屈でございます。

以上でございます。

○八代委員 1点だけ、後のほうなのですが、確かに和歌山県の年収は全国より低いかもしれません。東京で年収の高い人がそこに行ったときに、その説明が成り立つかどうかはやや心配だというだけで、御趣旨は分かりました。

○鳥羽局長 ありがとうございます。

○八田座長 中川さん、お願いします。

○中川委員 説明をありがとうございました。

ワーケーションを促進するためということで、非常に統一された説明のように思ったのですが、この提案のフィービリティみたいなものをお伺いしたいのですが、2点ございます。

1点目は、民泊について食品衛生上の特例とか、あるいは営業日数の特例につきまして、提案をいただいておりますけれども、民泊などについて十分な準備といえますか、実績があるのかということをお伺いしたいと思います。

2点目は、先端的サービスの提供というところで、テクノロジーの導入に関する幅広い御提案をいただいております。今までのスーパーシティの御提案を聞いていると、例えばバスに関する全自動化とか、あるいはドローンに関するカツオの輸送とか、そういったテ

テクノロジーの導入に関しては、何らかの実験とか、実証など、そういった準備を経て、いろんな御提案をいただいている例がございます。

そういった面で今回のすさみ町さんの御提案というのは、例えばバスの全自動化とか、そういった部分についての何らかの準備ができているのかということにつきまして、御質問させていただければと思います。

以上です。

○岡田アーキテクト 御質問をありがとうございます。

後ですさみ町からも補足があるかもしれませんが、アーキテクトからお答えをさせていただきます。

一般の民泊については、すさみ町はどうしてもホテルなどの宿泊施設が少ない場所なのです。民泊をやっているような家が30軒ぐらいあります。教育旅行などの宿泊を受け入れる家があって、素地はあります。人情として人懐っこい地域でもあるので、どんどん来てくれというところであって、町民全部の家でいきなりやるのは難しいと思うのですが、核となる家は十分にあって、例えば私も町長の家でしか食事をしたことはないのですけれども、そういった風土の地域なのです。だから、この輪を広げていくということでもあります。

2点目ですけれども、先端的サービスです。我々はスマートシティではやっていないのですが、私が経営している空港を中心に紀南地域でいろんなテクノロジーの導入をこれまでやってきています。顔認証は今回の柱でもありますが、顔認証はNECさんと2年以上やっています。

白浜空港でも例えばドローンを使った点検といったこともしていますし、これは他地域では実現できなかったのですが、白浜空港ではしたりしています。航空事業者との調整もできており、テクノロジーを導入する土壌はそろっています。

空港が、半分民間で、半分公共のような特徴のあるところがメリットになっていまして、空港会社が事業者さんと呼び込む。事業者さんにメリットが出るように、地域とうまく調整しながらビジネスモデルをつくっていく。こういったことをこれまでやってきました。なので、非常にサステナブルに、顔認証もNECさんの投資で、一部補助が入ったりするのですけれども、いろんな工夫をしながら2年以上やってきているといった素地があります。

当然我々も紀南の地でやっていただくような実証実験は、単体では事業者にとって投資採算が合わないことから、ほかの地域に売っていくお手伝いを事業者のために一緒にやって、それによって事業者からの投資を引き出す、こんなことをしています。すさみの場合は非常に人口が少ない小さな町なものですから、投資という意味でもお金がかさむものではないためやりやすいという小さな町であることのメリットがあります。

1点目について、すさみ町から補足があれば、お願いします。

○仲課長 すさみ町では、生業にしている人はいませんが、旅行者の受入れを対応している御家庭が約30軒ございます。食事を提供するという素地はあると捉えております。

以上でございます。

○中川委員 分かりました。ありがとうございます。

○八田座長 ほかに御質問はありますか。原さん、どうぞ。

○原座長代理 ありがとうございます。

二つ質問があるのですが、一つは、労働基準法の労働時間の通算の適用除外についてです。これは具体的にどんな働き方で、朝は何時間とか、そういうようなイメージを想定して、それが阻まれているということなど、教えていただければと思いました。

もう一つは、バスの完全キャッシュレスのところ、これは使える電子マネーか何かはどれぐらいと想定されているのでしょうか。特定のものを持たないといけないことになる、それはそれで不便だと思うのですが、どんな幅で考えていらっしゃるのか、イメージを教えていただければと思いました。

○岡田アーキテクト ありがとうございます。

これも後で補足が入るかもしれませんが、1点目の働き方ですけれども、ワーケーションでは様々ではあります。午前中は本業の東京のお仕事をされていて、午後の何時間は地元でリラックスする、こんなことを想定しております。あるいは平日に東京の仕事をやっていて、休日に地域の仕事をする。まさに副業の人などもこの地域で受け入れたりし始めているところなのですが、時間単位で皆さんが働かれるような形態です。そんな働き方を想定しています。どちらかというと、高度なIT人材とか、企画畑とか、そういった方がこの地にいらっしゃるというイメージです。

2点目のキャッシュレスは、基本的には顔認証です。支払い機能もついていて、白浜地域では2年以上やっているのですが、支払いも顔でできます。個別のICカードを入れたりすると、高くなるということもあるし、顔だと忘れ物は絶対しません。アクティビティにも向いているということで、交通インフラとして顔認証を入れる予定です。

○鳥羽局長 和歌山県の鳥羽です。

ワーケーションにつきましては、御案内のとおり、テレワークを活用して、リゾート地で仕事を継続しながら、その地域ならではの活動を行う取組でございます。その中で仕事をしながら、一方で、御自分のスキルアップであるとか、地域貢献をいろいろしていただくというのが売りでございます。

地域ならではの活動といたしまして、現在考えておるのは、一次産業につきましてお手伝いというか、労働をしていただいて、いろいろとスキルアップにつなげていただくことを考えてございます。

以上でございます。

○原座長代理 ありがとうございます。

通算のところなのですが、今では通算の適用除外をしないとできないのですか。

○仲課長 週40時間と決まっております。有給休暇の部分は当然入らないので、プラスアルファで仕事をする場合に、そういうことを御提案させていただいております。

○原座長代理 ありがとうございます。

○八田座長 ほかにございませんか。

私から伺いたいのですが、民泊について、全国民泊と特区民泊とがあります。特区民泊だと180日という制約はないのですが、なぜ特区民泊ではなくて、全国民泊を土台にされようとしたのか、そこについて御説明いただきたいのが一つです。

もう一つは、白浜空港の顔認証というのは、具体的にどのレベルで使われているのか。そして、決済手段はどういうふうにしておられるのか。その辺をもうちょっと詳しくお願いします。

○岡田アーキテクト ありがとうございます。

最終的には地元の人と交流してもらって、より関係人口をつくって、定住人口にしていくことを目指していて、大きなスケールというのですか、気合を入れてやりたいというのが、民泊については考えています。全国のモデルになるように大きなものを使っていきたいという意向があります。

2点目の顔認証ですが、2年半やっていて増えていて、今、白浜町内で25施設ぐらいだと思います。これは資本関係がない空港、ホテル、飲食店、バス、あと、羽田空港のJALショップでも使えます。ウエルカムメッセージ、または決済、こういったものは使えます。

2点目については、NECから補足をしてもらいますが、1点目、県庁からありますか。

2点目をNECから顔認証について補足があります。

○桑原シニアエキスパート 顔認証について補足させていただきます。

顔認証は2年以上やっています、20の施設に拡大しております。その間、内閣府のSIPの第2期ですが、ビッグデータのプログラムに選定していただきまして、おかげさまで4施設からそこまで拡大できました。

以上です。

○八田座長 ゆっくり話していただけませんか。

○桑原シニアエキスパート 補足させていただきます。

4施設から始まったのですが、20施設以上に広がったところでは。

決済に関しては、顔認証で決済をするという形になっていまして、昨年度、SIPの第2期で内閣府さんの補助を取りまして、施設を拡大してきたという経緯がございます。

もちろん個人情報とか、プライバシーに配慮して運用しているところで、研究対象に選んでいただいたところもあると思っております。

以上です。

○八田座長 それは顔認証をしたら、もともと届け出た銀行口座から引き落とされるという仕組みですか。

○岡田アーキテクト クレジットカードにつなげています。

○八田座長 クレジットカードは、かなり広い範囲をクレジットカードとつなげているわけですか。

○岡田アーキテクト VISAマスターでやっています。

○八田座長 分かりました。

先ほどの最初の特区民泊を使わないのがよく分からなかったのですが、特区民泊も当然やがて全国化するわけですから、特区民泊のほうがはるかに使いやすいと思うのですが、なぜ全国民泊をお使いになっているのでしょうか。

○鳥羽局長 和歌山県でございます。

私どもが考えているのは、農家だけに限らず、町内の住民の方の家で泊まっていくといったことでしたので、特区民泊も念頭にはあったのですが、一般的な制度改正を御提案させていただいております。

○八田座長 しかし、一般には180日という制約が大きいです。特区民泊は2日という制限はあるけれども、180日以上は認められないとか、そんな制約はないから、はるかに特区民泊が使いやすいと思います。

○鳥羽局長 おっしゃるとおりでございます。特区民泊的なことを入れるのは、今回の提案には入れていないのですが、念頭にはございます。全国民泊は住宅として使うというのが前提で180日と決められていると聞いてございますが、基本的にはすさみ町は大きな家が多いもので、空き部屋に泊まっていただくことを考えてございます。

○八田座長 分かりました。

ほかにございませんか。事務局もよろしいですか。

それでは、和歌山県・すさみ町のヒアリングをこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。